

MRI 造影剤に関する説明書

(必ずお読みください)

MRI 造影剤とは

MRI 検査のために体の中に投与するお薬で、通常、肘の静脈から投与します。MRI 造影剤を用いることにより、あなたの病気の診断や状態をより明らかにし、今後の治療に役立てられることが期待されます。

MRI 造影剤の副作用

MRI 造影剤で 1-2% くらいの方に何らかの副作用が認められます（肝特異性造影剤：EOB・プリモビストでは約 4%）。ほとんどは、吐き気・嘔吐・かゆみ・発疹などの軽度のものです。まれに呼吸困難やショックといった重い副作用を生じることもあります。このような副作用で入院が必要になったり、後遺症が残ったりする頻度は約 1.9 万人に 1 人（0.0052%）と報告されています。また、非常にまれですが、副作用で死亡することもあり、頻度は約 83 万人に 1 人（0.00012%）と報告されています。

副作用の危険性は、以前にガドリニウム系造影剤で副作用のあった方、気管支喘息の方、アレルギー体質の方で高くなります。また、腎臓が悪い方では、腎性全身性線維症という副作用を起こすおそれがあります。

合併症

針を刺すことによって、刺した場所の痛みやしびれが検査後も持続することがあります。頻度は軽症を含めると 6,000 人に 1 人（0.017%）とされています。

また、まれに造影剤が血管外にもれ、腫れや痛みを起こすことがあります。

MRI 造影剤を使用しない場合の不利益

病変を発見しにくくなることや、病変の状態がわかりにくくなる場合があります。

もし副作用や合併症が起きても適切な処置を行えるような準備をして、検査を行っています。造影剤について不明な点がある方、造影剤を使用したくない方は、検査担当者にお伝えください。